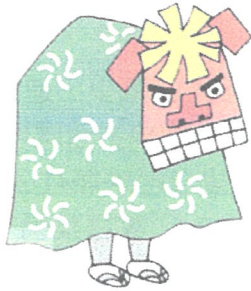


1月号

2015年 1月 20日発行



あさのがわ

みやちくじちしんこうかい 広報

宮地区自治振興会 甲賀市甲南町野川818 甲南第三地域市民センター内
 電話 0748-86-8518 FAX 0748-86-8519

謹賀

 新年



新年、明けましておめでとーございませう。
 本年も宮地区自治振興会を
 よろしくお願い申し上げます。

今年の年明けは、停電で始まりました。紅白歌合戦の中島みゆきの唄が始まると、部屋は突然真つ暗に。まさか停電とは思わず、窓から辺りを見回したが、灯り一つない。タブレットで調べるとどうもこの辺だけが停電のようだ。実際には柑子の一部は停電していなかったようですが、池田の一部と宮全体が停電だったようです。この時代には珍しい年明けとなりました。

一月二日は早朝より大雪、真つ暗だった年明けから一転真つ白なお正月、犬にせがまれ、雪に埋もれた野道を歩いていると、突然、明るい陽光に照らされて一面の雪がオレンジ色に輝き、新年にふさわしい景色が広がりました。

宮地区自治振興会では、地域の皆様に楽しんで頂ける企画と、安全に過ごせる環境作りを進めて参りました。皆様の理解と協力により、昨年事故無くそれぞれの事業で成果を上げることができました。本年は四年目を迎える改選や、地域おこし協力隊の受け入れなど、新たな年になりそうです。また市民センターでは農協から簡易郵便局を引き継ぎ、四月より継続営業いたします。今まで以上に市民センターに足を運んでいただきますようお願いいたします。

※写真上は、二日、日の出頃の上野川、下馬杉の雪景色 左下写真は、上馬杉油日神社停電のためろうそくの下での年越参り

●地域おこし協力隊がやってくる

宮地区が抱える課題は沢山あります、中でも少子高齢化による人口減少の進行は深刻です。地域の産業である農業を支える人々の高齢化、また人口減や生活環境の変化により、地域内の商店や、大工、左官、瓦工等の職人さんの減少など地域社会を支える基盤が消失しつつあります。他にも獣害の増加は農家だけでなく、家庭菜園や登下校の子どもたちにも影響ある問題となっています。どんなに便利になった世の中でも、機械やお金だけで解決できることばかりではありません。

今年度の自治振興会では、甲賀市からの提案もあり「地域おこし協力隊」の受け入れについて議論を重ねて参りました。地域おこし協力隊とは、宮地区に地域外から(なるべく)若者が移り住み、地域住民と一緒に地域課題の解決に取り組むという制度です。

最近では、地域力の維持強化を図るために、人材の確保は重要な課題です。また豊かな自然環境や、歴史文化に恵まれた地で、生活を希望する都市住民のニーズも高まっています。宮地区のニーズに合った地域外の人材を受け入れ、地域の人々と共に地域活性のために活躍してくれるこのシステムは双方にメリットがあります。

この制度は平成21年から始まっており、湖南市や東近江市など滋賀県下でも多くの市町村が既に受け入れを実施しています。東近江市では28歳の女性が「政所茶の普及」に取り組み、26歳の男性が「ムラサキの栽培」に取り組んでいます。いずれも受入地の良さを活かした作物作りであり、地域の人たちが親身になってサポートしています。協力隊の2人は地元の空き家に住みながら、それぞれ自分のやりたい事と併せて地域の諸活動にも積極的に取り組んでくれています。地元の人たちも、彼らを見て、地域活性のために、移り住んで働く姿に、応えなければと、そういう信頼関係が芽生えているようです。



地域おこし協力隊の仕事は、集落支援活動(地域内巡回・声掛け・見守りなど)と、自分が定住するために必要な仕事(起業や就労)をすることです。受け入れてから三年間は国の助成があり、その分集落支援活動などの地域に貢献することになります。その後は縁あれば宮地区で自立し生活をします。

宮地区自治振興会では、未来に向け、「地域おこし協力隊」の受け入れによる地域活性に夢を託し準備することにしました。

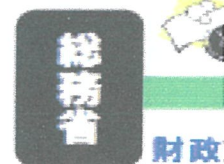
受け入れに当たっては、住まいの確保や地域の協力体制の整備をしなければなりません。早ければ今年の夏には受け入れをスタートさせたいと考えています。宮地区の活性を協力隊員に期待することはあっても決して丸投げすることではありません。もう一度自分たちのこの地を見つめ直し、ふる里宮の活性にご協力いただきたいと思います。皆様の前向きなご意見もお聞かせ下さい。



地域おこし
少や高齢化
材を積極的
の生活や活
がら、地域
度である。

◆地域おこし

総務省が
住民を受け
力活動に従
隊員活動
および自治
置されます。



- ◆隊員一名につき
上限400万円(報酬
活動費、各200万円)
- ◆自治体一団体が
上限200万円(募集)

財政難・人

右のグラフは地
たちの、隊員以前
のグラフです。

性別では男性
が44%30代が3
60代以上でも活
年末では約1000
す。隊員以前には
後は7割近い人が
ています。

協力隊 (ちいきおこしきょうりょくたい) は、人口減少等の進行が著しい地方において、地域外の人材に誘致し、その定住・定着を図ることで、地方で働くへの意欲を持つ都市住民のニーズに応えながら、地域の維持・強化を図っていくことを目的とする制度 (総務省)

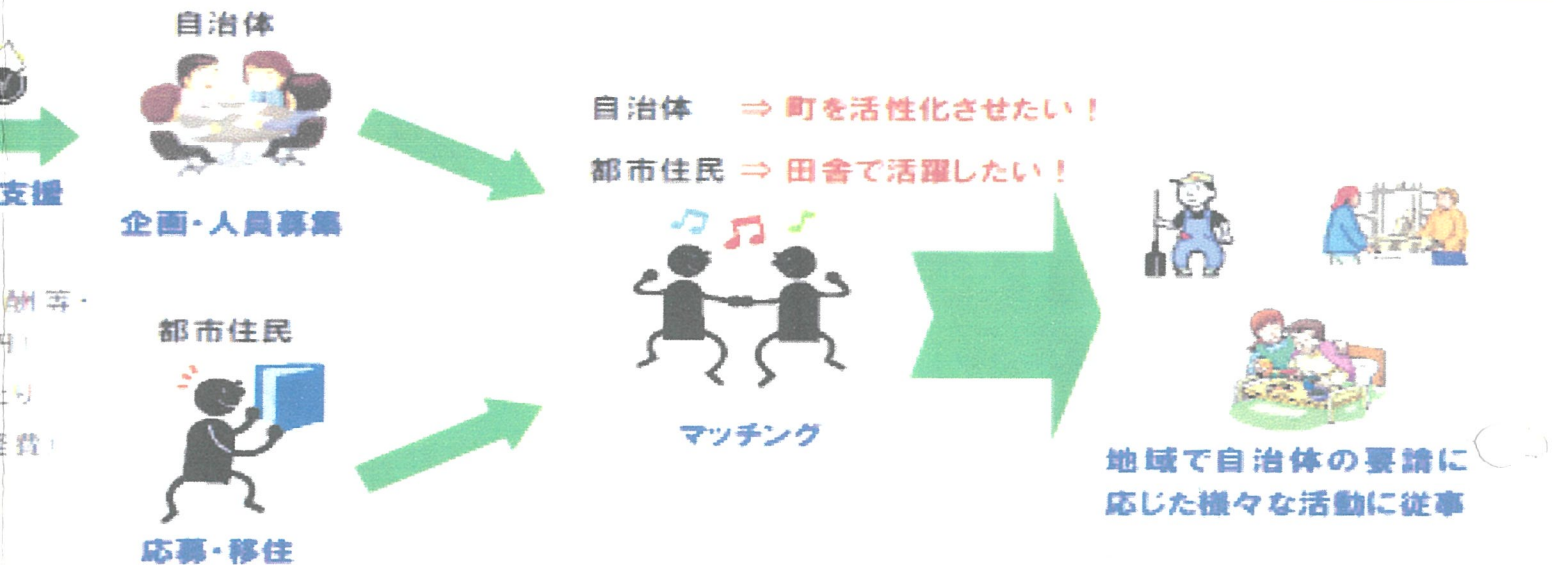
「地域おこし協力隊」とは？



地域おこし協力隊って何？

平成21年度から実施している制度で、地方自治体が国からの財政支援の下で都市部から人材を受け入れ、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、地域福祉活動など、様々な地域協力を進めようとするものです。

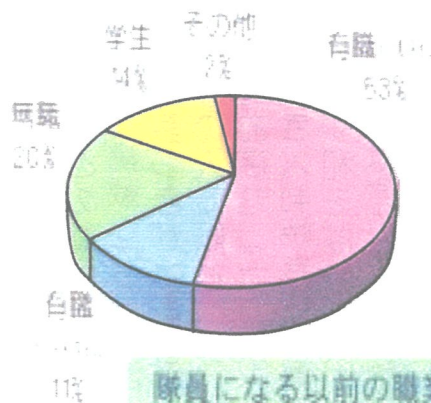
活動の内容は自治体が独自に要件を決めて募集を行い、隊員1名につき上限400万円、1団体あたり上限200万円の募集経費が最長三年間、国から特別交付税として措置 (受け入れ人数の制限なし)



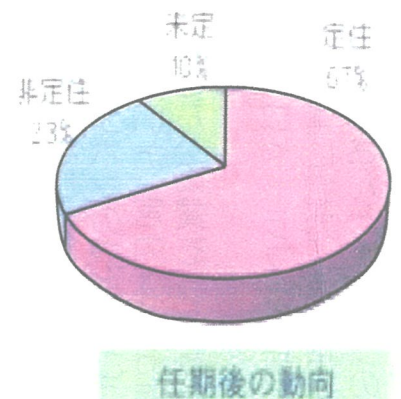
人員不足に喘ぐ自治体も多い中、国の予算で町おこしを担う人員を確保できる！

地域おこし協力隊として活動した人の前職と、任期終了後の就業場所

が63%女性が37%で、年齢は20代66%と若者が圧倒的に多く、中には活躍している方もおられます。平成25年度の協力隊が日本各地で活躍中で、企業での就業者が多く、任期終了後協力隊として受け入れ地で定住し



(平成22年11月時点調査 全体数230名)



(平成24年1月時点調査 全体数100名)



わくわくフェア2014 12月6日開催



十二月六日(土)は恒例の『わくわくフェア』(JA甲賀と宮地区自治振興会との共同開催)今回も沢山のひと、品物で賑わいました。早朝より厳しい寒さで、風が冷たく開催時にはほとんど、お客さんが見当たらず、先行き不安なままのスタートでしたが、開始の花火が良かったのかその後順調に客足が伸びホッとしました。ガラポン会場からは大きな笑い声と、鐘の音が会場を盛り上げます。

二階の会場では、宮の芸術作品の展示と、小学生の作品展。さらには「手作りコーナー」では、伝言ボード作りとめがねケース作りに沢山の人が挑戦してくれています。

お餅つきが始まる頃には、例年通りの人で賑わいました。農協さんのお店も、たまごのパックも、たご焼き大判焼き屋も唐揚げも焼きそばや和そばも、どのお店も終了時間には売り切れ状態でした。

子どもたちの弾む声と、ガラポンの景品を沢山抱えたおばちゃんの写真から、元気をいっぱい頂いた一日になりました。

ガラポンの景品をこころよく提供頂いた、宮内外のお店や企業の皆さん、協賛ありがとうございました。

事故やトラブルも無くスムーズな運営に協力していただいた参加者の皆さんとスタッフの皆さん、ご協力ありがとうございました。